



その32



今月の案内人
濱嶋 守さん(高木町)



高木城跡(高木氏発祥の地)



が、この地
に田(名
田)を所有
していたこ
とから始ま

碧海台地の東の端に位置するこの場所「高木城跡」の石碑が建っています。その西側のやぶの一角がかつての館跡と考えられます。範囲などははっきりしていませんが、その名残と考えられる館守りのお地藏さんが城跡の角に残されています。

ります。時代は移り変わり、室町時代、その子孫にあたる高木宣光がこの高木に移り住み、その子、清秀は、後の江戸幕府創業に功績を立てた16人の武将「徳川十六神将」の一人とされる人物です。

1563年、三河一向一揆が起り、松平家康(後の徳川家康)は苦戦を強いられました。このころ清秀は刈谷城主水野信元に仕えており、信元は家康を救援するために出陣し、これに従った清秀も戦功をあげました。このため清秀は、高木氏の先祖がかつて持っていた高木の田地(名田)を家康から与えられたそうです。



妙源寺(岡崎市)にある高木清秀の墓

戦国の習いとはいえ、清秀は水野、織田、徳川とその主を変えつつも、たくましく生き抜きました。戦い振りが優れていたようで、姉川の合戦や長篠の合戦など、常に一番槍の武勇をあげて世に知られ、作戦参謀としても優れ、徳川十六神将として顕彰されたのです。高木の地は、江戸幕府創業の立役者の故郷なのです。

その後、1582年の本能寺の変の後、織田氏を離れて家康の家臣になり、千石の知行をもらいました。

1584年、清秀は小牧長久手の合戦にも出陣し、軍監として活躍しました。高木町内会には、清秀がこの小牧長久手の合戦の際に身に付けた陣羽織とされるものが残っています。



陣羽織